

VI.一時預かり等のサービスの利用について

一時預かり等のサービスの利用状況、利用希望状況は以下のようになっています。

表1 病児・病後児の預かり

	病欠をした割合 (%)	年間平均病欠日数 (日)	病欠日の施設での預かり希望 (%)	平均預かり希望日数 (日/年)
就学前児童	72.1%	13.1日	61.2%	7.8日
就学児童	62.0%	5.1日	18.5%	3.4日

表2 一時預かり

	子どもを家族以外に預けたことがある (%)	預けた平均日数 (日)	一時預かりサービス利用希望 (%)	平均預かり希望日数 (日)
就学前児童	36.3%	14.1日	38.7%	8.51日
就学児童	25.4%	12.7日	14.7%	2.85日

表3 宿泊を伴う一時預かり

	子どもを家族以外に預けたことがある (%)	預けた平均泊数 (泊)
就学前児童	12.4%	4.3泊
就学児童	14.0%	3.6泊

表4 ファミリーサポートセンター

	利用率 (%) 利用希望率 (%)	平均利用回数 (回/月)	平均利用時間 (1回あたり)	回数増加希望者の希望時間 (時間/月)	未利用者の希望時間 (時間/月)
就学前児童	1.2% 16.5%	4.7回	3.0時間	11.0時間	9.1時間
就学児童	0.5% 8.7%	3.1回	3.0時間	40.0時間	10.7時間

※ 利用目的では「保育園等への送り迎え時」「保育施設等で足りない時間を補う」などがあがっています。

表5 常設オープンスペース

	利用したことがある (%)	平均利用回数 (回/週)	新規利用、利用日数増加希望率 (%)	利用希望者の平均希望回数 (回/月)
就学前児童	11.2%	1.1回	21.4%	1.58回

※ 利用しない理由では「家の近くにない」(20.0%)「時間がない」(23.8%)が多くあがっています。

VII.留守家庭子ども会の利用について (就学児童調査)

留守家庭子ども会の利用率は10.2%、「利用していないが希望がある」割合は6.2%、「利用していない、今後の利用希望もない」割合が75.0%です。[図12]

利用理由としては「現在就労している」が92.5%を占めます。一方で利用していない理由は「現在就労していない」(35.6%)、「短時間なら子供だけでも大丈夫」が19.3%、「親族が家にいる(子供の帰宅時には親が家にいる)」が18.1%です。

また「小学校4年生以降の放課後の過ごし方」について望むことを尋ねた結果、「クラブ活動や習い事をさせたい」が43.0%で最も高く、「留守家庭子ども会」の利用希望は11.5%にとどまっています。[図13]

図12.留守家庭子ども会の利用の有無と今後の利用希望 (%) (n=全員:1954人)

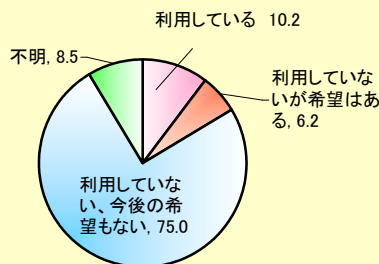
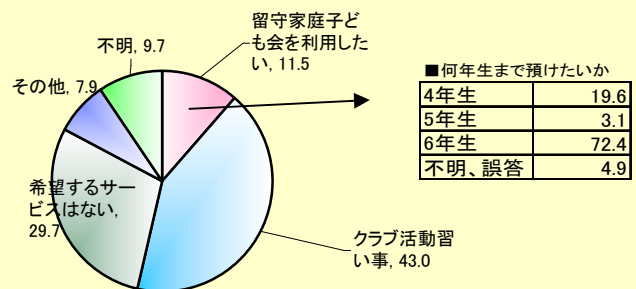
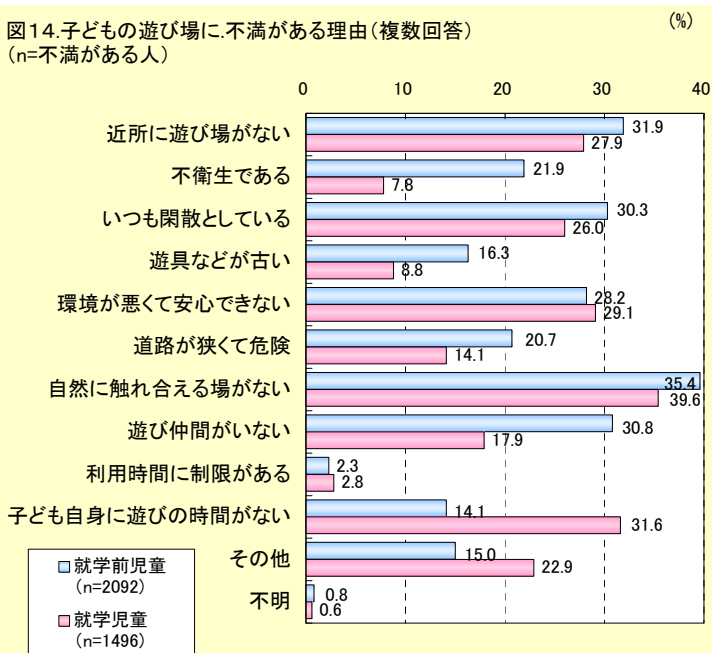


図13.小学4年生以降の放課後の過ごし方の希望 (%) (n=全員:1954人)



VIII. 子どもの遊び環境について

図14. 子どもの遊び場に、不満がある理由(複数回答)
(n=不満がある人)



現在の子どもの遊び場として最も多いのは、「自宅、友達の家」、次いで「公園」となっています。

自分の子ども時代と比べて遊び環境に不満がある割合は就学前児童で71.6%、就学児童で76.6%と高くなっています。

不満理由は「自然に触れ合える場がない」が最も多く、就学前児童では「近所に遊び場がない」「遊び仲間がない」が続きます。就学児童では「子ども自身に遊びの時間がない」と「環境が悪くて安心できない」が続きます。【図14】

遊び場に対する希望では、就学前児童は「水遊び、泥んこ遊びなど、木登りなどが自由にでき、見守りや支援を行う大人がいる遊び場」「屋内の遊び場」が高く、就学児童では「ボール遊びなどができる広いグラウンド広場」「水遊び、泥んこ遊びなど、木登りなどが自由にでき、見守りや支援を行う大人がいる遊び場」が高くなっています。【図15】

地域の身近な場所にある屋内の遊び場については「ぜひ作ってほしい」割合は、就学前児童で50.5%と高く、就学児童で27.0%を占めます。【図16】

屋内の遊び場の最も重要な機能は、就学前児童の52.9%、就学児童の68.7%が、「走り回れるような十分な広さがある」としており、就学前児童では、「遊具が充実している」ことへの希望も25.9%と高くなっています。

図16. 身近な場所の屋内の遊び場の利用希望 (n=全員)

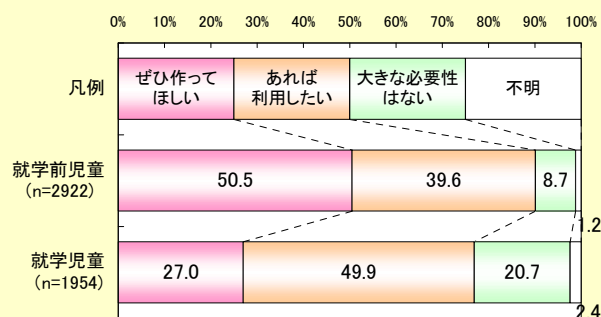


図17 自分の子ども時代と現在を比べた遊び時間 (n=全員)

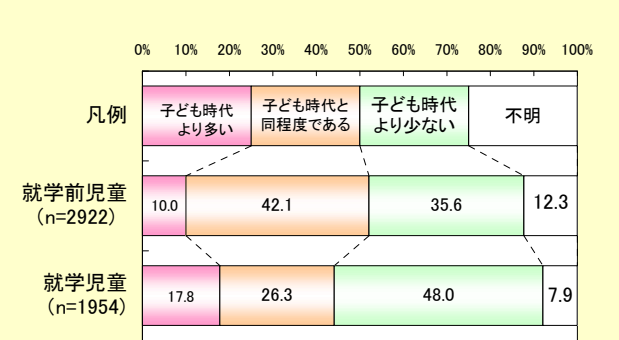
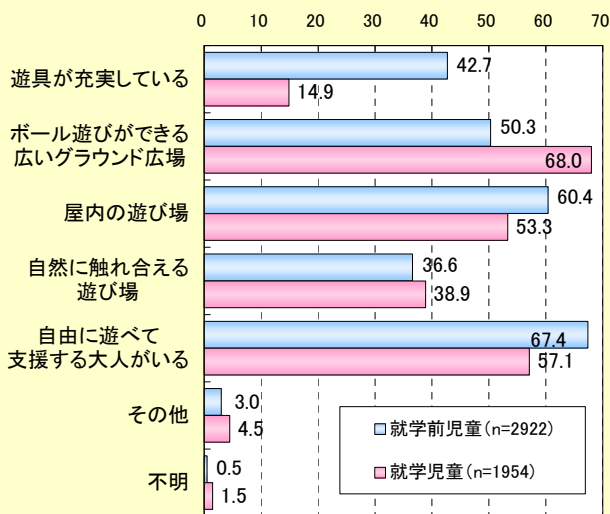


図15. 遊び場に対する希望(複数回答) (n=全員)

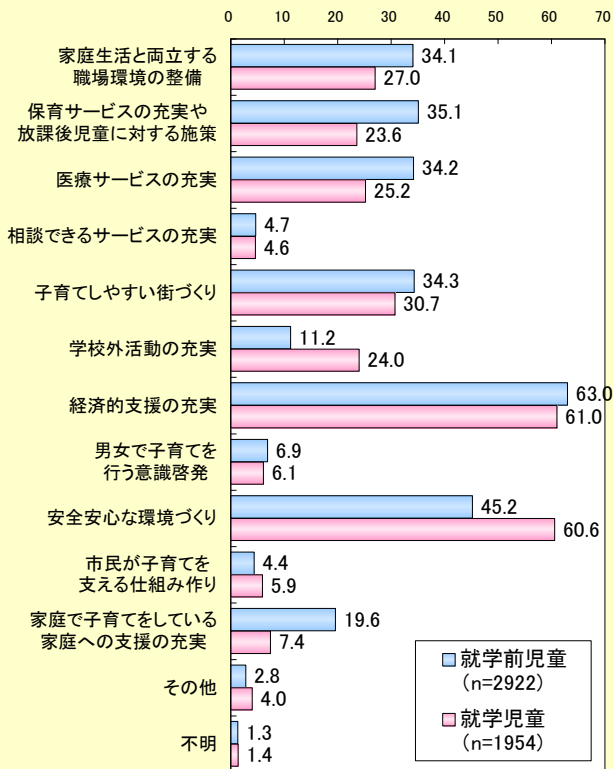


遊び時間については、就学前児童では「自分の子ども時代と同程度」が42.1%と最も多くなっていますが、「自分の子ども時代より少ない」が35.6%になっています。

就学児童では「自分の子ども時代より少ない」が48.0%と最も多く、「自分の子ども時代と同程度」が26.3%となっています。【図17】

IX.子育て支援行政等について

図18.国や市などの行政に期待すること(複数回答)
(n=全員) (%)

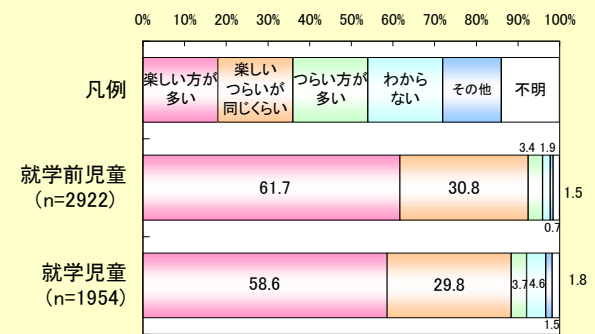


「子育て支援」のため、国や市など行政に期待することで最も多いのは、「経済的支援の充実(児童手当、教育費・医療費の負担減など)」、次いで「犯罪や事故から守る安全安心な環境づくり」、「住宅や公園の整備など、子育てしやすい街づくり」「医療サービスの充実」「家庭生活と両立する職場環境の整備」などが続いています。[図18]

子育てを「楽しいと感じることが多い」割合は就学前児童の保護者が61.7%、就学児童の保護者は58.6%です。[図19]

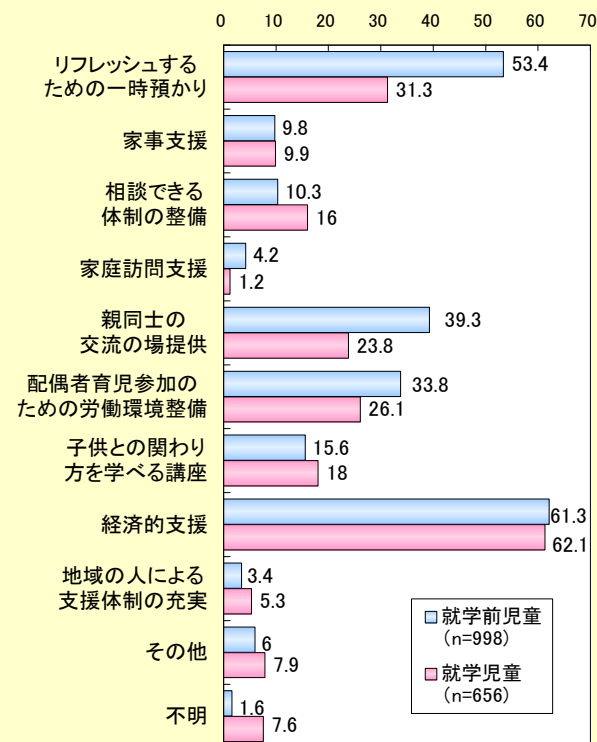
それぞれ男女別に見ると、就学前児童、就学児童ともに、男性の方が「楽しい方が多い」割合が高く、女性は「楽しいとつらいが同じくらい」が男性より高くなっています。

図19.子育てを楽しみと感じますか(n=全員) (%)



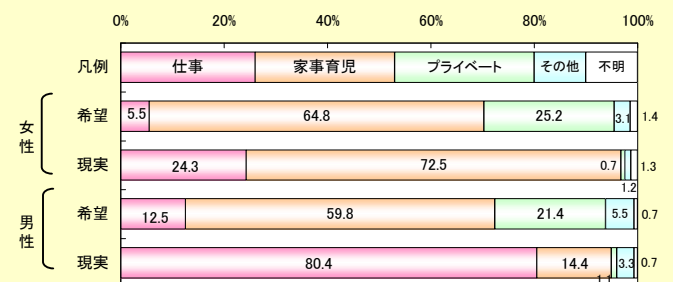
「つらい」と感じる人が求める「子育て支援」は、「経済的支援」が最も高く、就学前児童の保護者の場合は、「リフレッシュするための一時預かり」が続きます。[図20]

図20.精神的な負担を減らすために必要な支援(複数回答)
(n=楽しいつらいが同じくらい、つらい方が多い人) (%)

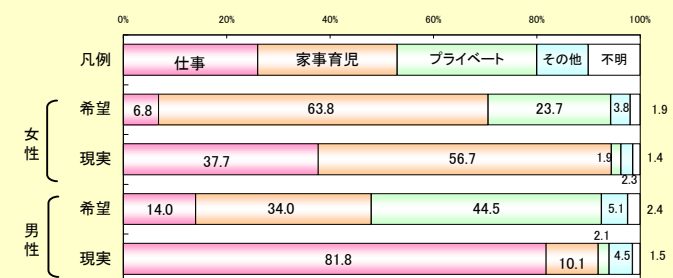


「仕事」「家事育児」「プライベート」の優先度について希望と現実を比較すると、「プライベートを優先する」希望が高いが現実では「プライベートを優先」している人は少なくなっています。就学前児童を持つ女性は「希望」に比べて現実には「仕事」と「家事育児」、就学児童を持つ女性は希望に比べて「仕事」が優先されており、男性は現実では「仕事優先」が8割を超えています。[図21]

図21.仕事時間と家事プライベートの優先度
◆就学前児童◆(n=全員2922人)



◆就学児童◆(n=全員1954人)



X.子育て支援サービスの利用状況・今後の利用意向

